

英雄義経こゆうゆうよしつね
(松口月城)まつぐちげつじょう

鉄拐てつかいの 峯みね 屋島やしまの 浜はま

義経よしつねの 武勇ぶゆう 鬼きか 神しんか

平家へいけの 軍勢ぐんぜい 忽たちまち 討滅とうめつ

曾かつて 是これ 雪中せっちゅう 乳ちちを 覓もとめしの 人ひと

解説 義経の武勇を詠った詩。

語釈 ※鉄拐||摂津の六甲山に属する峰。 ※屋島||香川県高松市のシンボル屋島。屋根の形状に似ている事から付けられたといわれています。源平合戦が繰り広げられた舞台、屋島。那須与一の弓エピソードは、あまりにも有名です。

※武勇||武術にすぐれ、勇気のあること。強くていさまじいこと。 ※討滅||うち滅ぼすこと。 ※乳覓人||義経が牛若の頃、母・常盤御前に抱かれて雪中の逃避行の時、お腹がすいて乳を求めた逸話。

通釈 源義経の戦法はまさしく「鬼か神」といったところ。疾風迅雷、敵の意表を衝くやり方で常に勝利を収めてきた。鴨越えの坂落とし然り。屋島の戦い、また然りである。曾ては雪の中の逃避行の時、お腹がすいて乳を求めたその人である。